

むたい俊介

ニュース



2012年 夏号 / No.10

■公式Twitter ▶ @mutaishunsuke ■ホームページ ▶ www.mutai-shunsuke.jp ■facebook ▶ https://www.facebook.com/shunsuke.mutai



▲ 徳本峠を越えて穂高連峰を臨む

ごあいさつ 皆様お元気ですか。天変地異と政治の混乱が連動し、我が国の現状は極めて厳しい状況にあります。このようなときにこそ足下を固め、地域を大事にする視座が必要だと考えています。地域を再生するための政治機能の回復・強化に向けて邁進しています。

むたい俊介プロフィール

昭和31年 (1956年) 安曇野市(旧三郷村)生まれ 大町市・旧豊科町で育つ
 昭和50年 松本深志高校卒業
 昭和55年 東京大学法学部卒業後、旧自治省入省後
 地方分権推進委員会参事官、総務省消防庁防災課長、総務省調整課長、
 総務省大臣官房参事官、自治体国際化協会ロンドン事務所長などを歴任
 平成19年 この間武蔵大学・信州大学非常勤講師、関西学院大学客員研究員も務める
 平成20年 自民党長野県第二選挙区支部長就任、翌年衆議院選挙に初挑戦
 平成22年 神奈川大学法学部自治行政学科教授を兼ねる
 ■クライシスマネジメント協議会理事、地域安全学会元理事、日本地方財政学会、日本自治学会会員

インターネット
テレビ番組

「むたい俊介アワー」

USTREAM ▶ <http://ustre.am/jyRg>

定期的にインターネット中継によるテレビ番組を放送しております。様々な方をゲストにお迎えし、むたい俊介との対談を放送中。是非御覧ください。過去収録分がアーカイブズで御覧いただけます。



▲ 山小屋経営者と



▲ 地元製業業幹部と



▲ サッカーチーム理事長と



▲ 震災対応で活躍した町会長と



▲ 子育て応援サイトを立ち上げた女性と



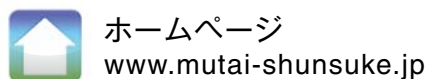
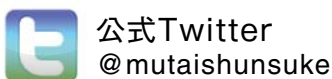
▲ 東日本大震災災害現場にいち早く駆けつけた地元病院の救急救命士と



むたい俊介メールマガジン

むたい俊介から皆様に、毎週の活動報告や政策提案、講演会などのご案内をお届けしております。ご登録をご希望の方は mail@mutai-shunsuke.jp にメールをお送りください。

日々の活動をwebで公開しています



発行元 自由民主党長野県第二選挙区支部 長野県松本市白板2-3-30 大永第3ビル 101
 TEL: 0263-33-0518 FAX: 0263-33-0519 mail: office@mutai-shunsuke.jp

活動報告

2012年上半期の活動状況を抽出しました

防災勉強会のコーディネーター (2月10日)

午後、衆議院第二議員会館の地下会議室で防災セミナーに参加。元FEMA危機管理官の基調講演の後、私のコーディネートで井上忠雄NBCR対策推進機構理事長、清水真人日経新聞編集委員、村松岐夫京都大学名誉教授(行政学)、小野次郎参議院議員(元総理秘書官)、谷公一衆議院議員(元兵庫県防災局長)によるシンポジウム。政治主導下の東日本大震災の危機管理を様々な観点から検証し、今後の日本の危機管理の課題と在り方について議論。各機関を調整、マネージメントする機能の必要性、防災分野の専門家の育成の必要性の認識が共有された。大震災という非常時に官僚機構を使いこなせなかったトップマネージメントについても批判が集中。この模様は後刻ustream放映。夕方、都内のホテルにて私の東京後援会の準備会を開催。35名の知人・友人にお集まりいただき、東京後援会長を決め、結束を固める。



▲ 衆議院第二議員会館での防災セミナー

安曇野市豊科での麻生元総理の講演会 (5月13日)



松本市内の少年柔道大会にて激励の挨拶の後昼前に松本駅前にて街頭演説。昼に松本駅に麻生太郎元総理をお迎えする。安曇野市豊科の「蔵久」で麻生氏を囲み蕎麦の昼食。「蔵久」に場所を提供している飯田氏が元総理饗応役。昼過ぎに安曇野市豊科公民館で750名超を集めた麻生太郎氏の講演会。冒頭、麻生氏の「安曇節」披露で会場は和む。夕方、麻生氏は松本駅前にて街宣車に登り街頭演説。若い女性が足を止めて聞き入る。現在も人気がある麻生氏の影響力を実感。その後、安曇野市の支援者の会合に顔を出す。

◀ 豊科公民館での麻生元総理講演会

長野市戸隠地区を訪問 (6月11日)

早朝、松本駅前、深志二丁目交差点にて街頭演説。午前中、松本市内の支援者を訪問。有賀前松本市長宅に、何と、草間弥生さんの「必勝祈願」書があることを大発見。その後、安曇野市明科でポスター設置作業。午後から長野市戸隠地区の集落を巡る。空き家の一軒家を別荘に活用している所沢、土浦、兵庫県の住人と話をする。夕方、戸隠の支援者とのミニ集会。「おれたちは苦しい生活の中でも頑張っているが、生活保護支給の現状を聞くと、受給申請をしたい気持ちになる」との意見も。



戸隠の支援者の皆様と ▶

党本部の会議 (6月18日)



▲ 党本部での会議

早朝、永田町自民党本部にて、先週末に与野党合意に至った税と社会保障一体改革に関する全議員・選挙区支部長会議が緊急開催され、出席。立錐の余地なき盛況。この問題に関する関心の高さを物語る。2時間にわたる議論の最後に、谷垣総裁が、「対岸にいて解散を声高に叫んでも話は進まない。与党との政策調整を通じ与党の実態が実は意思決定ができない分裂状態にあることを国民に知らしめることができる」と語る。与党の責任体制の欠如こそ、決定・実行できない政治の原因との認識に我が意を得たり。会合では私自身も、経済対策の出勤を消費税引き上げとセットで行うこと、国民会議の設置は総選挙後であるべきことは絶対条件、との意見を述べる。後者は解散時期にも関わる問題との認識。午後、松本市内南部地区を訪問。途中、ブドウ農家の方から話を聞く。夕方、松本駅前にて街頭演説。

安全大会で防災講演会の講師を務める (7月7日)

早朝、松本市内で支援者との朝食会。昼前に安曇野市のある企業の系列会社の安全大会で「地域防災力を高める」との演題で講演。約100名の方に国の防災対策の現状と地域防災力強化の手法について私見を披露。午後、信濃町松木重博町長の後援会役員会に顔を出す。じっくりと信濃町の課題を伺う機会を得る。その後、信濃町、飯綱町方面を巡る。



▲ 安曇野市内の安全大会で講師を務める

写真ギャラリー



▲ 松本駅前の街頭演説



▲ 南安曇農業高校の学園祭にて



▲ 護国神社例大祭参加の皆様と



▲ 松本市内のポスター設置



▲ 安曇野市豊科のたまねぎ祭り



▲ 鬼無里の棚田を背に



▲ 大町市の若一王子神社の流鏝馬祭り



▲ 松本市薄川河畔で元気な子どもと



▲ 保育園の夏祭りに参加



▲ 鉄工所であいさつ



▲ 安曇野市明科の庭先でミニ集会



▲ 麻績村訪問途中に出会った竹馬作りのボランティアの皆様と



▲ 父の米寿をお祝い



▲ 安曇野市豊科徳治郎地区の道祖神祭にて



▲ 信濃町古海地区の神社の雪除け現場にて



▲ 唐沢俊二郎元代議士と



▲ 村井仁長野県知事(当時)と



▲ 自民党のエネルギー政策勉強会で河野太郎氏、飯田哲也氏と

Message メッセージ

「親の負担から見る大学の地方分散と地域再生」

～壮大な規模で行われてきた地方から都会への仕送り～ 務台 俊介

大学のゼミで、学生生活にかかる経費と親の負担について学生にレポートをしてもらい、皆で議論を行った。

全国的な調査と自らの大学の個別の調査、日本の公的教育費支出と私的負担、諸外国の教育費の実態などについて様々な観点に立った分析を学生は行ってくれた。

大学生の授業料、生活費について、親が負担するのが当たり前だと思っているのが日本の大学生。それに対して、欧米の学生は多くは、親ではなく自己負担が当たり前だと考え、実際にそのように学生自身が負担を行っている。そしてそれを担保するための奨学金制度が欧米では充実しており、学生が勉学に集中できるシステムが充実している。

日本の場合は、授業料などは親が負担するのが一般的であるが、生活費を満額親が負担しきれず学生もアルバイトをしているのが実態である。日本学生支援機構の貸付奨学金制度を活用している者も多い。

私学に通う下宿学生の場合、4年間で1,000万円の経費がかかっている実態調査の結果が発表された。国立大学の下宿学生では760万円、私学の自宅通い学生では680万円、国立大学の自宅通い学生では440万円という順番で経費は逡減するが、それでも大きな負担であることは否めない。

子供を都会の大学に出すために、地方に住む田舎の親はなげなしの資金をはたいて都会に出た子供に仕送りを行う、という図式が我が国の現状である。発表を聞いた学生は、例外なく、「親に感謝しなければならない」との感想を持った。

さて、感謝の気持ちは別として、ただでさえ、地方における資金循環が悪い中で、本来ならば地方で循環すべき資金が、子供に対する親の仕送りという形で、壮大な規

模で地方から都会に資金が吸い寄せられるのである。

私の居住する長野県では、子供が高校を出て大学に進学する時点で、大学進学者の85%もの若者が県外に出てゆく。それを親が巨額の資金の仕送りで支える。これでは、長野県内に資金が回らないで、景気が低迷するのはあたりまえである。

85%もの大学進学者が県外に出てゆくということは異常である。国際教養大学の中嶋嶺雄学長も、それぞれの地元^①に質の高い大学研究機関を設置することで地域社会に若者を留め、地域社会を元気にすることが出来ると主張しておられる。地元の子供たちが地元の大学に進学できれば親の負担は少なくなり、県外に流出していた資金も県内を循環する。

若者の都会に出てみたい気持ちは無理からぬ気持ちであろう。私もそうであった。しかし、その点については、大学間連携システムを構築することにより、都会の大学の授業を地方の大学の学生が受講できる仕組みも十分に可能である。短期滞在の寄宿舎を互いに整備するなどして、講座の共有を進めれば、何も無理をして都会の大学で4年間に1000万円を使うといった無理をしなくても済むこととなる。

子供の大学生活を支える負担の大きさに思いを馳せる中で、地域再生のヒントの1つは、大学の地方分散にある、と改めて強く意識した次第である。



▲ 神奈川大学での私の授業のひとつ

あなたの声をお聞かせください。
政策や日本の将来を語り合しましょう。
ぜひ、お気軽にお立ち寄り下さい!

自由民主党長野県第二選挙区支部
長野県松本市白板2-3-30 大永第3ビル101
TEL:0263-33-0518
FAX:0263-33-0519
mail:office@mutai-shunsuke.jp

